

世界から日本へ  
**研修員**  
**eye** アイ

JICA北海道(帯広)では、開発途上国から来た多くの研修員が、  
自国で必要とされている知識や技術を学んでいます。



ベトナムにも遊びに来て下さいね～

**DAO NGOC DAI**さん  
ダオ・ゴック・ダイ

自国の言葉であいさつ紹介

**xin chao** (シンチャオ)

ベトナムの言葉で「こんにちは」

●出身:ベトナム

●研修コース:青年研修 アグリビジネス/  
アグリエコツーリズムコース(ベトナム)



研修コースを支えて  
くださっている方を  
ご紹介します

株式会社いただきますカンパニー  
代表取締役 **井田 芙美子**さん

**Q1** 国際協力(JICA研修事業)に携わるようになったきっかけを教えてください

主に観光客向けの農業体験事業を行っています。農業王国十勝の地域性を活かした新しいビジネスモデルという点と、女性起業家という点で、青年研修のコースリーダーとしてお声かけ頂きました。私自身経験が浅い中で恐縮でしたが、同年代の方の研修ということで、お互いに刺激を与え合えるのではないかと思います。



広大な小麦畑をご案内

**Q2** JICA研修に対してどのような想いでご協力いただいていますか?

もともと一人旅が好きで、バックパックを背負い国内海外を回っていました。今は子どもがいてなかなか旅行に行けないので、地域に居ながら世界各国の方と出逢える機会として貴重な機会を頂いています。また、自分の経験やご紹介する事例が世界のどこかで活用され、貧困の解消や環境問題の解決に微力でも力になればと思います。



参加者の疑問や要望を丁寧に聴くように努めました

**Q3** 思い出に残っている研修のエピソードを教えてください

トルコの青年研修を担当した時、ライスピディングやブルブルという郷土料理を研修員と一緒に作り、お世話になった講師の皆さんにふるまったことが良い思い出です。食を通してお互いの文化を感じることができました。メインプログラム以外での発見や学びも、重要な要素なのかもしれません。

**Q.ベトナムはどんな国?**

ベトナムは人口約9,270万人のインドシナ半島東側の細長いS字型の国で、食文化や宗教的にも日本と似ている点が多く、親しみやすい人柄が特徴です。若年層の人口比率も高く、農林水産業だけでなく工業の面でも発展中の国です。

**Q.JICAでの研修の目的は?**

北海道・十勝における農林水産業を中心に研修し、日本でもベトナムでも主流となってきた、農業と観光を一体に進める事例を学びに研修にきました。

**Q.日本の印象はいかがですか?**

日本への訪問前は、工業で発展している印象が強い国でしたが、日本に来てみると都市開発を進める地区と農業を進める地区など並行的に開発されており印象が変わりました。環境への配慮も行いながら開発が進められているなと感じました。

**Q.日本で行ってみたい所ややってみたい事はなんですか?**

研修を通して日本の農業や観光の専門知識を学んで行きたいです。食文化では、サッポロビールがベトナムにもあるので、本場日本のサッポロビールも飲んでみたいです。次回は冬の期間に来て、スキーやスケートなどベトナムでは出来ないアクティビティに挑戦したいです。

**Q.日本で学んだ事をどのように自国で活かしたいですか?**

日本で学ぶ、農地計画や農業のサプライチェーン、ブランディング、農業と観光の関連性などをベトナムの置かれている各地の状況に合わせて適用していきたいです。



シエラ海外ボランティア

**関尾 憲司**さん

●派遣国:コロンビア

●出身:帯広市

●職種:環境行政

●派遣期間:2016年3月~2018年3月



配属先事務所でのスタディ:中央が筆者

世界各地で  
がんとある  
ボランティアの  
現場から



しあわせの国からこんにちは!  
コロンビアは「地球幸福度指数」や「世界幸福度調査」で常に上位に入っている国です。そんな「しあわせの国」の国立公園事務所で、生態系サービスへの評価と自然保護区拡大への支援と協力などを行っています。元々中南米には、「健全で持続性のある経済は健全な生態系を保全することで維持されていく」という考えがあり、水やエネルギー、生物資源、伝統文化、先住民族の人権を保護し、乱開発や

無法な森林利用などを抑制させることで、GDPや経済の活性化、地球環境問題等に貢献しているという報告がなされています。さらに長く続いた内戦から「適切な土地利用回復と農村地域の貧困削減」をはかり、「平和構築を志向」していく方針が掲げられ、その努力に対するお手伝いができる喜びをかみしめながら、日々活動に励んでいます!



高山の国立公園での配属先の職員達と踏査:左が筆者

# 新ボランティア紹介

道東から出発の  
2017年度  
1次隊



スペイン語の上達と  
素敵な思い出や  
友達を作る。

世界遺産をまわり  
任国文化を  
肌で感じる!

**Question**  
①現地での活動内容  
②活動の抱負もしくは目標



高橋 勝紀さん



青年海外協力隊

- 出身: 北見市 ●派遣国: エクアドル
- 職種: 小学校教師
- ①小学校教員(算数)として現地教員の指導技術向上。
- ②算数教材の共同開発と子どもたちに合わせた指導技術の提供。



佐藤 夏美さん



青年海外協力隊

- 出身: 中標津町 ●派遣国: グアテマラ
- 職種: 体育
- ①小学校を巡回し体育授業の推進と充実を図る。
- ②笑顔溢れる授業で任国の子どもたちに運動の楽しさを伝える。

ラオスの暮らしに  
溶け込み、  
各地でたくさん  
写真を撮りたいです。



深津 奏瑛さん



青年海外協力隊

- 出身: 網走市 ●派遣国: ラオス
- 職種: 助産師
- ①ラオスの郡病院で、産科の強化に向けて活動します。
- ②気付きと驚きを大切に、現地の人と一緒に働きたいです。

何か楽器を  
弾けるように  
なりたいです。



大道 祐次郎さん



青年海外協力隊

- 出身: 音更町 ●派遣国: ガーナ
- 職種: 柔道
- ①現地では柔道の普及活動はじめ、ナショナルチームでの技術力向上のための助言、また刑務官養成学校で主に青少年に対し、基礎の指導。
- ②現地ではいち早く生活に慣れ、活動内容をこなして行きたいと思っています。2020年には日本でオリンピックが開催されますが、自分が育てた選手を出場させることができたら嬉しいと思っています。

訓練所で練習した  
ウクレレを使った  
演奏会と文化交流を  
したいです!



中田 かおりさん



青年海外協力隊

- 出身: 土幌町 ●派遣国: ザンビア
- 職種: 家政・生活改善
- ①妊産婦を含む地域住民に対する食生活の改善
- ②地域住民が自分たちで続けられるような改善方法の提案、実践

## おかえりなさい! 帰国研修員が再び帯広で研究発表会を実施

JICA北海道(帯広)は1996年の設立当初より、帯広畜産大学原虫病センターにほぼ毎年研修員を受け入れてきました。これまで受け入れた研修員の数は200人以上にものぼり、それぞれが自国で活躍しています。

その中から、研修後に各国で研究成果を上げている帰国研修員20名を、2017年3月5日から3月11日までの一週間にわたり帯広に招へいし、研究発表会を実施しました。参加した帰国研修員の出身国はアルゼンチン、ブラジル、ブルキナファソ、中国、インドネシア、ケニア、キルギス、メキシコ、モンゴル、スリランカ、タンザニア、タイ、ウガンダ、ベトナムの14カ国、現在は大学教授や関係機関で要人となっている人もおり、招へい期間中は研究者間で活発な意見交換が行われました。

また、当時ホームステイでお世話になったホストファミリーとの再会を楽しみにしている帰国研修員も多く、10年以上ぶりの再会など感動的な場面がいくつもありました。

「帯広は故郷。戻って来られてうれしい」と目を輝かせていた帰国研修員の姿が印象的でした。

### 研修員受入



招へい者と関係者の集合写真



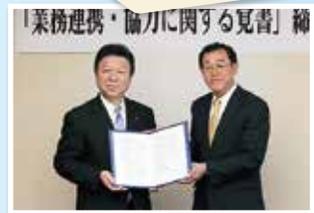
研究発表会

## 北海道初! 帯広信用金庫と「業務提携・協力に関する覚書」を締結

### 中小企業 海外展開支援

5月12日、JICA北海道と帯広信用金庫は、「業務連携・協力に関する覚書」を締結しました。この覚書の締結により、セミナーの共催や金庫職員向けJICA事業勉強会、定期意見交換、企業向け相談会の開催など、様々な連携事業を行うことが可能となります。今後はそれぞれが持つネットワークや知識・経験を最大限に活かして、海外展開を目指す十勝の中小企業に向けたサポートを一層充実させていきます。

さらに、JICA研修員との交流促進などを通して、中小企業支援だけにとどまらない地方創生への貢献を目指します。今後の展開にぜひご注目ください!



締結式の様子